

令和元年度第4回諫早市まちづくり総合戦略推進会議
会議記録（要旨）

日時：令和2年2月18日（火）

13：30～15：40

場所：諫早市役所8階 8-1会議室

【会議次第】

1 開会

2 協議事項

（1）第2期 諫早市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

【要旨】

(会長)

協議事項に沿って会議を進める。

(1) 第2期 諫早市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料1 第2期 諫早市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について説明。

(会長)

第2期総合戦略(案)の基本目標1「魅力あるしごとをつくる」について、意見・質問等はないか。

(会長)

数値目標である「雇用創出数」を5年間で900人としているが、南諫早産業団地の整備やソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)の増設に伴う雇用創出数を踏まえると、目標数が少ないのではないか。

(事務局)

ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)の増設に伴う雇用創出数は報道等で1,000人程度と言われているものの、現段階では定かになっていない。

「雇用創出数」については企業誘致、新規創業、新規就業の合計を目標としている。企業誘致は、南諫早産業団地における雇用創出数が600人、新規創業が150人、新規就農が150人を見込んでいる。今後、雇用状況を勘案し、見通しが立った段階で必要に応じて改訂を行うこととしたい。

(委員)

雇用だけでなく、市内に家族とともに住んでもらわないといけないと思う。できれば30代の子育て世代が良い。

大学生や高校生と話をすると、地元出身の学生は県内のことに関心が高く、留学生を含め市外等から来ている学生は、県内に残りたいという人が多いものの、実際は県外へ就職している。留学生には市内産業団地の製造業に興味があり、将来的には共同研究がしたいと思っている人もいる。

(会長)

学生の卒業後の市内定着に向けて不足している点は、地元企業の情報発信ということか。

(委員)

父子家庭の学生の場合は親の傍にいたいので県内就職するケースがある。留学生の場合は治安が良いことや、福岡県に近く新幹線沿線であれば母国の両親が来

訪しやすくなることも県内に残りたい理由として挙がっていた。

企業情報が学生に行き届いてないというのはあると思う。市内に様々な産業がある中で、大学、自治体、関係機関が連携し企業等の情報発信を行う取組ができればと思う。

(会長)

外国人の就労について諫早市で取り組んでいることはあるか。外国人を雇用したいと思っている企業もあるかと思う。受け入れのための受け皿をつくっていく必要があると思うがどうか。

(事務局)

本市在住の外国人は、主に技能実習や留学により来訪されている。技能実習の場合は監理団体を通して企業に派遣されている。先日、国内就職を希望されているインド人留学生を対象に市内企業の職場見学を行ったところであり、今後、商工団体等と連携しながら市内企業の魅力を発信していきたいと思う。

(会長)

施策の大項目ウ「安定した雇用の創出と人材育成」の⑧「高齢者の就労支援」について、「諫早市シルバー人材センター会員登録数」がK P Iであるが、高齢者の就労を支援するK P Iとしてふさわしい指標であるか。

(事務局)

シルバー人材センターは、健康で働く意欲のある60歳以上の方に短期的で軽易かつ安全な仕事を紹介している。主な仕事として、家事・福祉・育児サービスや庭木の剪定、農作業の補助等である。K P Iについては所管課と再度協議してみたい。

(委員)

施策の大項目ウ「安定した雇用の創出と人材育成」の⑥「農業・漁業の担い手の確保・育成」について、今回、漁業の担い手確保・育成が追加されている。農業の事例ではあるが、以前、雲仙市の畑作農家は後継者の増加とともに子ども数も増加しているという新聞記事が掲載されていた。これは行政等の経営体育成支援が上手くいった結果ではないかと思う。全国的に人口減少が続いている中で、人口減少に歯止めをかける手立てはあるのではないかと感じた。

(会長)

漁業について、安定した収入や担い手の確保に向け、具体的な対策はあるか。

(事務局)

漁業については漁業担い手確保育成事業において新規漁業就業者の支援を行っている。全国的に地球温暖化等の環境変化の影響で漁獲量が減少し、漁業をとりまく情勢は厳しい状況である中、小長井町漁協では新規就業者を3名育成されて

いる。同漁協は、牡蠣やアサリの養殖により収入を得、また、組合員数は維持されており、市内の他の漁協にも波及させていければと思っている。

(会長)

第2期総合戦略(案)の基本目標2「多様なつながりを築き、新しいひとの流れをつくる」について、意見・質問等はないか。

(委員)

大項目ウの「多様なツーリズムによる新しいひとの流れの喚起」の②「文化・自然ツーリズム等による交流人口の増加促進」について、本文中に「本明川下流域及び干陸地など国営諫早湾干拓事業により創出された地域資源」とある。ボート練習場をイメージしたが、他にはどんな地域資源があるのか。本文中に「ボート等」と盛り込むと意味が変わるのか。

(事務局)

本明川下流域のボート練習場は日本代表候補の合宿等に利用されている。このほかの地域資源として、深海干陸地においてはクロスカントリー場、コスモスの植栽、高来そばの試験栽培等が行われており、このような地域資源を活用しながら交流人口の拡大を図ってまいりたいと考えている。様々な地域資源の使い方があり、幅広い形で利活用を図ってまいりたいと思っているので、本文中には特定の地域資源は表示していない。

(会長)

本明川は、定住人口につなげるための資源でもあり、周囲に自然や公園、散策道等があって交流人口を拡大するための資源でもあるので、ブラッシュアップされるべきだと思う。もっと磨きをかけPRしていくべきと思うが、どのように考えているのか。

(事務局)

令和4年度の新幹線開業を見据え、市民団体の協力をいただきながら本明川や長崎街道等の地域資源を活かして市の魅力をアピールするような観光資源の掘り起こしとメニュー化するための取組を官民連携で検討しているところである。

(委員)

本明川一帯には多様な資源があるのに市民は気づいていないので、外部の視点から刺激を与えてもらい、市民が主体的に動いていくべきと思っており、現在、市民団体である「本明川交流会」において議論を行っている。今後、行政にはバックアップをお願いしたいと思っている。

(会長)

第2期総合戦略(案)の基本目標3「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」について、意見・質問等はないか。

(委員)

施策の大項目エの「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現」の①「市民・事業所に対するワーク・ライフ・バランスの啓発」について、働き方改革の観点に含まれているのか。私が勤務する会社では、子育て世代の男性職員は18時には帰社して、家事等や子育てを両立していると聞いている。

(事務局)

市では、仕事と子育てや介護等を両立できるような働き方の見直しについて、セミナー等を開催し啓発を行っている。働き方改革という観点も含まれている。

(委員)

農業者の働き方について、農業が盛んな飯盛地域では祖父母と後継者世帯が共同経営を行っている家庭が多く、後継者世帯は親の手助けを受けながら学校行事への参加など子育てにも励んでいるものの、農業は夫婦で行っているが、家事等は母親が中心という世帯は不満があったりもする。

このほか、後継者確保の一環として県央農協に協力いただき、馬鈴薯の収穫体験を行っている。

(会長)

若者の定着を図るということから言うと、地域の仕事を子どもと一緒に体験する取組は必要と思う。

(委員)

世界的にコロナウィルスが流行しており、都会ではマスクが必須と聞いている。諫早市は今のところ感染者は報告されておらず、比較的安全に子育てができるまちである。安全であることをアピールすることも良いのかなと思う。

(委員)

ワーク・ライフ・バランスに関し、父親の仕事と子育ての両立について、父親も子育てや家事が決して嫌なわけではなく、関わっていかないといけないと思っている。母親側からも上手く父親を巻き込んでもらい、家事や子育ての両立を図ってほしいと思う。

(委員)

今の子育て世代には父親が家事をする家庭もある。企業側も仕事を休みやすい環境をつくってくれたらいいと思う。

(委員)

小さな子どもを持つ妊娠中の母親が東京から諫早に帰省されている。東京ではコロナウィルスの影響であまり外出できないため、ノイローゼ気味になっていたが、帰省してからは子どもを週3日保育園に預けることができ、精神的に落ち着いたという話を聞いた。諫早市は安全なまちであることをアピールすることも必

要なのかなと思った。

(仮称)小長井交流広場の検討が進められているが、計画に盛り込んでもらえればと思う。小長井町は県境に位置し長崎県の玄関口である。施設が整備されれば市外から人を呼び込むことができると思うので、早期に取り組んでいただきたい。

(事務局)

(仮称)小長井交流広場については、第2次諫早市総合計画に盛り込んでおり検討を進めている。どのような用途に利用していくかなど精査してまいりたいと考えている。

(委員)

大項目イの「妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援」の②「小児医療等の充実」について、「諫早市こども準夜診療センター」は市、諫早医師会等が連携し運営しており、利用者の約8割が市民、約2割が雲仙市民であり、市外から帰省中の子どもも利用されている。開設から12年余りが経過しているものの、諫早医師会の医師の顔触れはほぼ変わっていない。一昨年、40代の後継者が地元に戻ってきたが、平均年齢は65歳以上である。今後、本市出身の若手医師に戻ってきてもらえると運営の継続ができると思うが、見通しが立っておらず懸念している。

「準夜診療センターであればすぐに受診できる」と思われているようだが、朝もしくは前日の時点から体調がすぐれない場合は、昼間の小児科等を受診してもらえると、医師の負担が軽減されるので協力をお願いしたい。

二次救急である輪番制病院について、外科医の数が少なくなっており、大学病院等から雇用している病院もある中、一次救急で対応できる患者が二次救急に回ると、医師の負担が大きくなる。私の時代は日勤と当直をして次の日も日勤をするということもあったが、働き方改革により勤務医にそのような労働はさせられない。諫早医師会としては継続していきたいと考えているが、救急については、今後、厳しい時代が来ると思っている。

(会長)

医師数は増加していると思っていたが、そうではないのか。

(委員)

医師数については研修医制度が充実しており全国的には増加しているが、都市圏に集中し地方は少ない状況である。

(事務局)

諫早医師会におかれては、「諫早市こども準夜診療センター」の運営にあたり、365日、医師を派遣いただいております、感謝申し上げます。また、医師の確保は非常に重要であると認識している。

別の委員から里帰りされている妊婦についてのご意見があった。市においては、

予防接種は里帰り中の妊婦も受けられるようにしている。また、令和2年度からは産後ケア事業を始めることとしており、妊娠・出産・子育てまでの支援が整ってきていると思っている。

(会長)

第2期総合戦略(案)の基本目標4「ひとが集い、安心して暮らせる魅力的なまちをつくる」について、意見・質問等はないか。

(委員)

市内には遊ぶところが少なく、真新しいところに行きたいと思うと、県外に出かけたりしている。県外では屋内アスレチック施設があったりもするが、遊べる施設が市内にあるといいと思う。

市内の渋滞について、貝津町や小川町付近の渋滞は、島原道路の全線開通により解消できるのではと期待しているが、諫早郵便局付近の交差点は渋滞が多く、市民から不満の声があったりしている。

市内の飲食店は総人口に対し店舗数が少ないのではないかと思う。外食すると混雑している店舗が多い気がする。

若者にとっては、遊べる施設など様々な店舗があり、通信環境が良好であればもっと魅力的なまちに感じてもらえるのではないかと思う。

(委員)

遊び方について、今の子どもはスマートフォンばかり見ている。大人が遊び方を子どもに伝えてあげられればいいと思うが、大人もあまり知らないのではないか。学校で地域の方と「昔遊び」を行ったときは、子どもたちはすごく喜んでいった。子どもたちが協力して考えながら遊ぶ方法を大人が教えてあげられたらいいと思う。

(事務局)

教育委員会では「地域子ども教室」を推進しており、児童が地域の方々と軽スポーツや昔遊びなどを行う活動を実施している。また、児童が自宅を離れ、数日間、共同で公民館に寝泊まりしながら学校へ通う「通学合宿」を行っており、食事の準備等は児童が行い、お風呂は近所にもらい湯に行き、その後、学習して就寝するという体験活動を実施している。通学合宿を体験した子どもたちは、自ら進んで行動するという成果が得られている。

(委員)

市内のこども会について、周辺部は比較的参加している子どもが多いが、市中心部では組織がなくなったケースもあることから、学校現場だけでなく、自治会や老人クラブなど地域団体と連携した取組を進めていくことが必要と感じており、そのような取組が、子どもの地元を愛する気持ちを育てることにつながると思うし、将来、家庭を持つ段階で生活の拠点に地元を選ぶことにつながると思う。

基本目標3の「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」は、地道に積み上げて

いくしかないと思うが、様々な視点でいろいろな手法を使いながら進めていくことで、子どもたちを地元根付かせ、あるいは市外県外の人に市の魅力をアピールできると思う。

大項目アの「活力に満ちた持続可能なまちづくり」の②「コンパクト・プラス・ネットワークの形成」について、「既存都市施設の有効活用を図る」とあるが、新幹線開業後は、長崎本線は上下分離され、現在のJR所有の駅舎等は有効活用できると聞いたので、まだ先のこともかもしれないが、地域の活性化につなげるため土地や施設の有効活用を図ってほしいと思う。

(委員)

奨学金制度について、看護師を目指す学生には病院から奨学金を受けながら専門学校等に通い、卒業後はその病院に勤務するという制度がある。医師を目指す学生は経済的な負担が大きいと思う。市の奨学金制度をもっとアピールして制度の活用を促してはどうかと思う。

(委員)

医師を目指す学生のための奨学金制度は県で設けられており、毎年10人程度が活用されていると思う。奨学金を受けた研修生は長崎医療センターで研修し、その後、離島など県内の病院で勤務されている。医師の奨学金制度は市単独で実施していくことは難しいと思う。

(会長)

その他、全般的に意見・質問等はないか。

(委員)

他の委員の意見を聞いていると、諫早市は良いまちだと感じつつ、アピールができてないのかなと思った。住みやすい環境であることをアピールできれば、より良い市になっていくように思う。

(事務局)

これまでの会議においてもシティプロモーションに関する指摘をいただいている。市内連携を図りながらより良いPRを行ってまいりたいと考えている。

(委員)

最近近隣市が非常にPRを行っている。本市は、50年に一度の大型事業を進めているものの、プロモーションが足りてない気がする。諫早市は魅力が多くポテンシャルは高いと思っているので、頑張ってもらいたい。

(委員)

基本目標1の大項目ウ「安定した雇用の創出と人材育成」の⑥「農業・漁業の担い手の確保・育成」のKPIである「市内3漁協組合員数」について、最近、小長井町漁協が他の漁協と合併するとの報道があったが、指標に変更はないのか。

また、合併後の拠点はどこになるのか。

基本目標 1 の大項目アの②及び③の「創業支援」と基本目標 1 の大項目ウの④及び⑤の「起業支援」については何か棲み分けしているのか。また、該当すれば両方の支援が受けられるのか。

(事務局)

小長井町漁協は、瑞穂漁協と国見漁協との合併を検討されている。「市内 3 漁協組合員数」という K P I については、小長井町漁協の実績をカウントするので、指標については記載のとおりとしたい。合併後の拠点については、現時点では小長井町漁協になるのではないかと考えている。

創業支援は、運転資金や設備資金など創業時の必要な資金について、経済的な負担を軽減するために支援している制度である。起業支援は女性の起業及び再就職を支援する取組である。該当すれば両方の支援が受けられる。